

コロナ禍が高齢者に及ぼした影響

国立長寿医療研究センター
荒井秀典

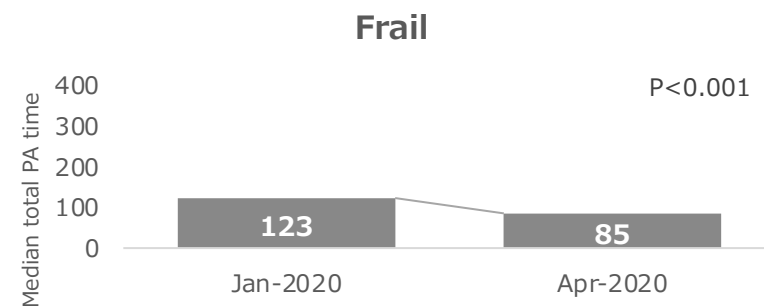
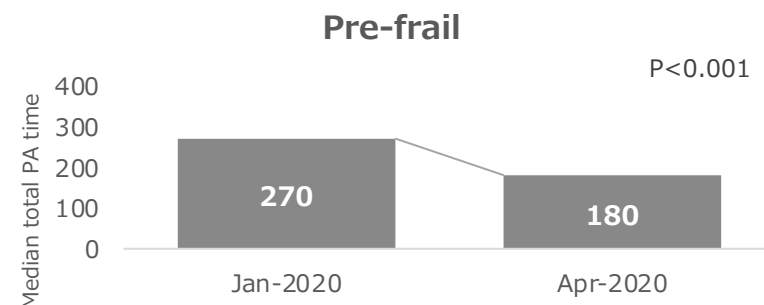
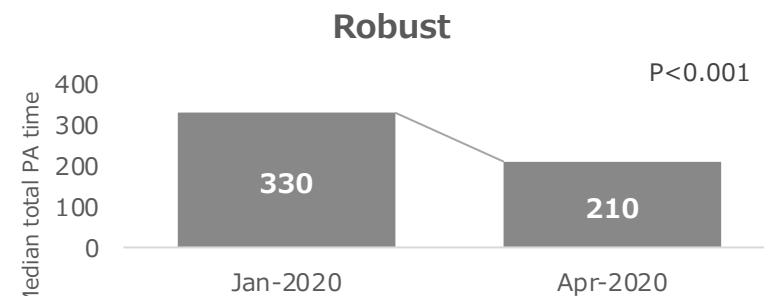
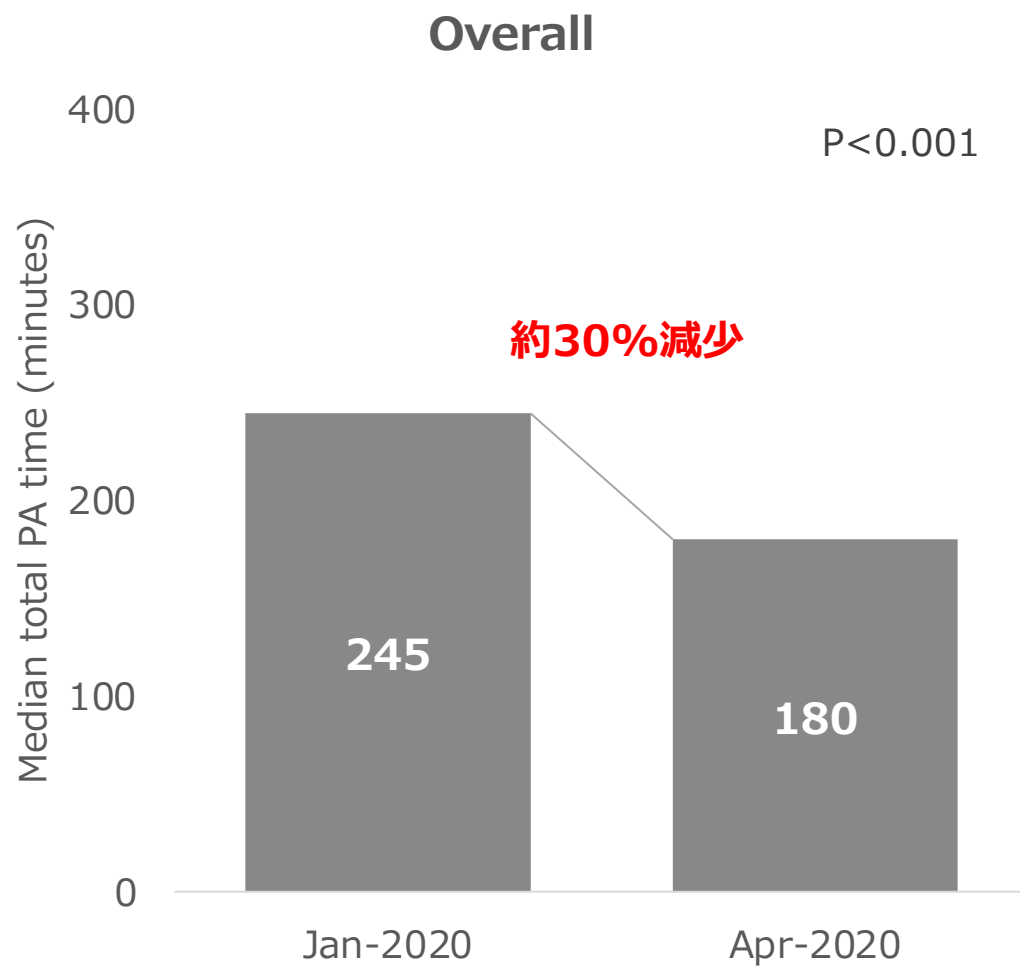
コロナ禍における社会的影響

- 感染を恐れての活動自粛
- 公園、通いの場など、交流の場の閉鎖
- 自宅で過ごす時間が増加
- 社会交流低下
- 栄養摂取の偏り
- 抑うつ傾向悪化

COVID-19による活動自粛の実際

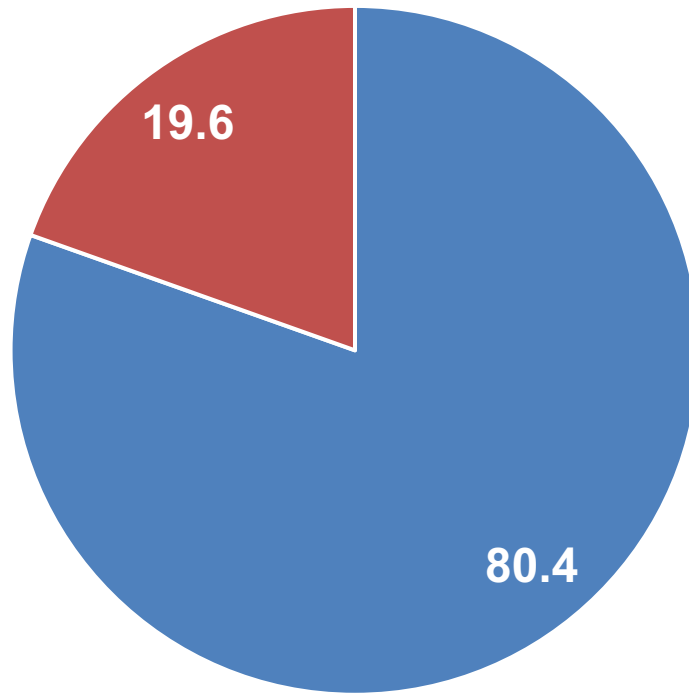
- COVID-19の世界的流行からの約1か月の間で、187カ国
455,404名の平均歩数が27.3%減少 (Geoffrey H. et al., 2020)
- 18歳以上の2381名のインターネット調査では43%で身体
活動が減少 (Gornicka M et al., 2020)
- 当センターにおいても、訪問リハを1ヶ月間中断

COVID-19と身体活動量



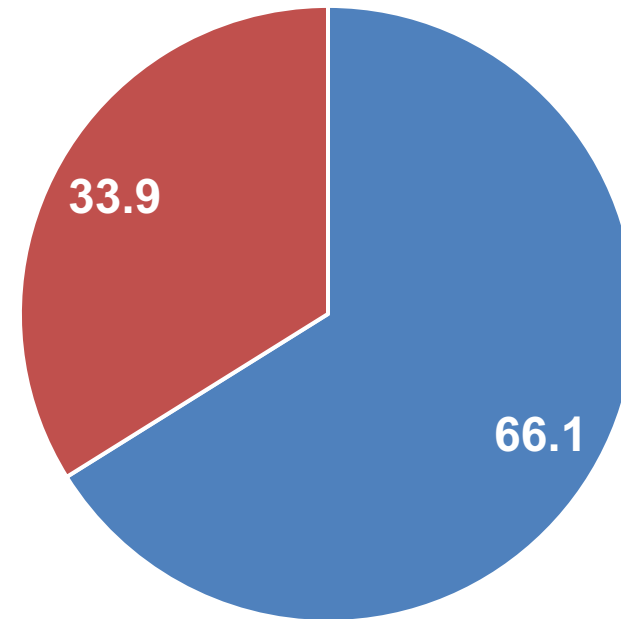
コロナ禍での外出頻度

買い物で外出する頻度



■ 減少した ■ 減少していない

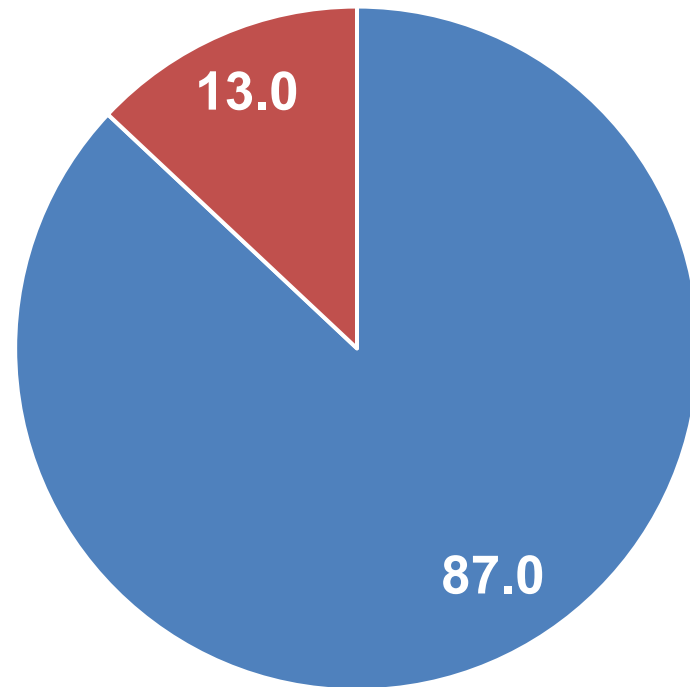
ウォーキング等で外出する頻度



■ 減少した ■ 減少していない

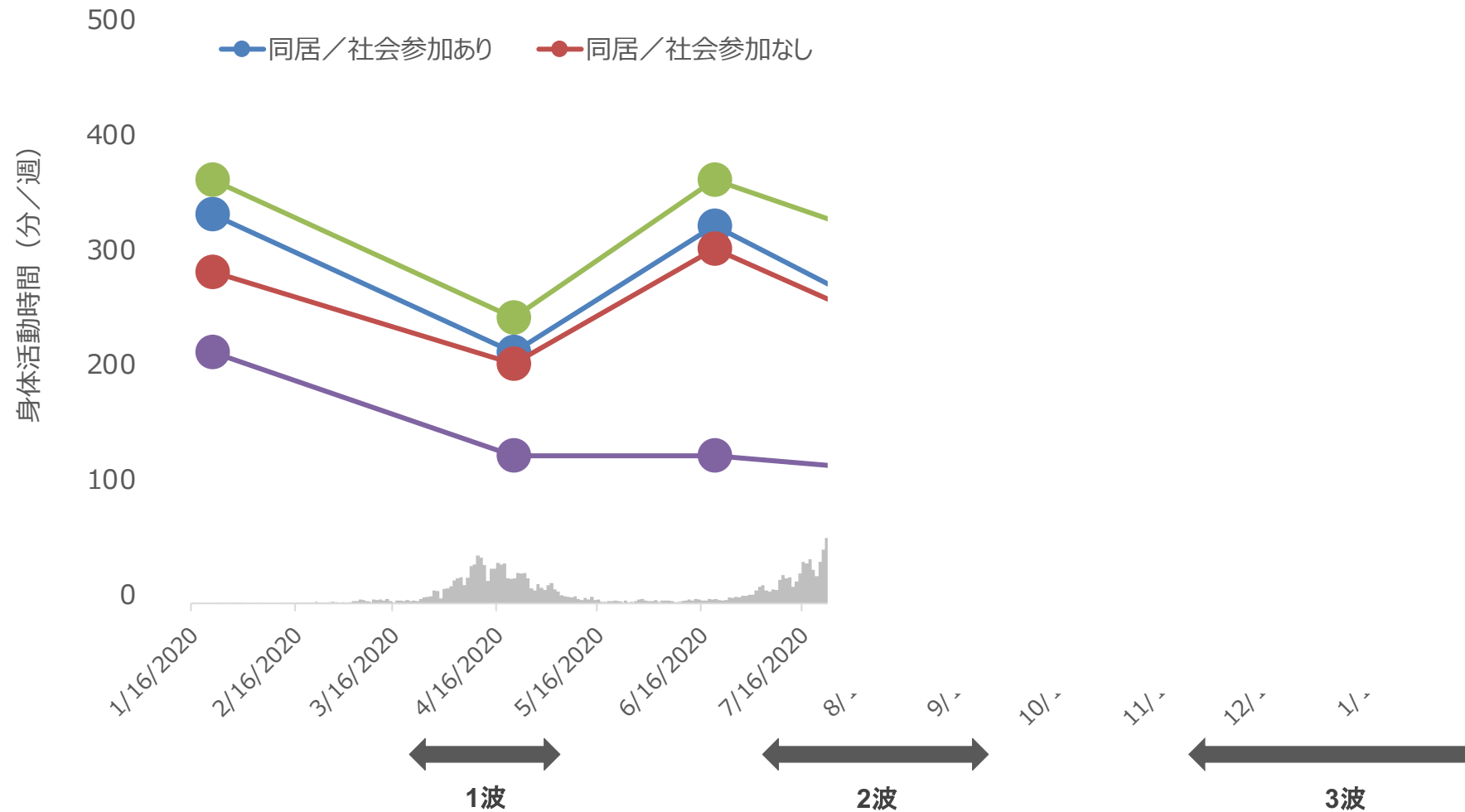
コロナ禍で交流機会

友人・知人との交流機会



■ 減少した ■ 減少していない

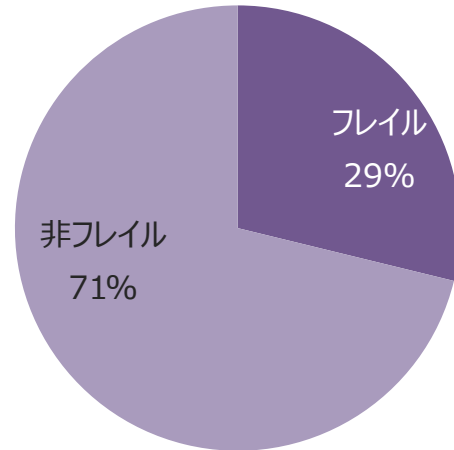
感染者の推移と身体活動時間の変化



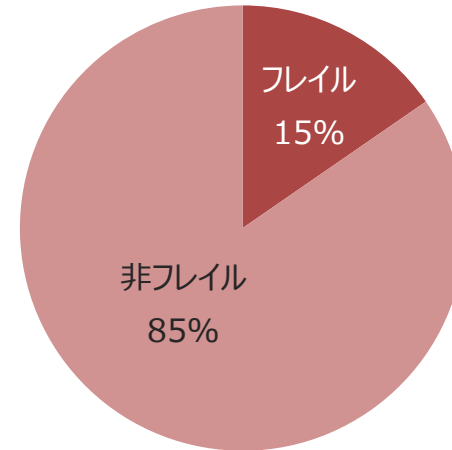
フレイルの新規発生

n=937
73.5±5.5歳

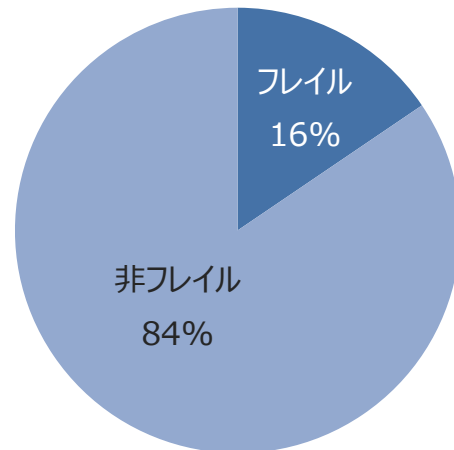
独居／社会参加なし



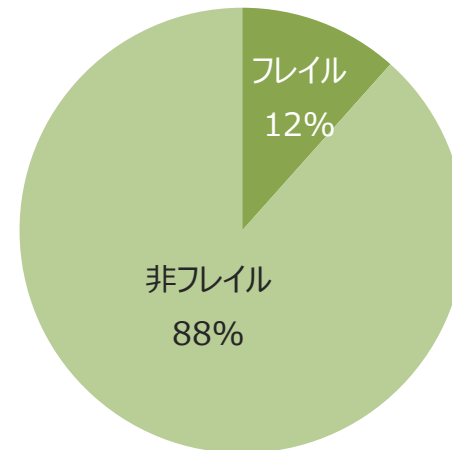
同居／社会参加なし



同居／社会参加あり

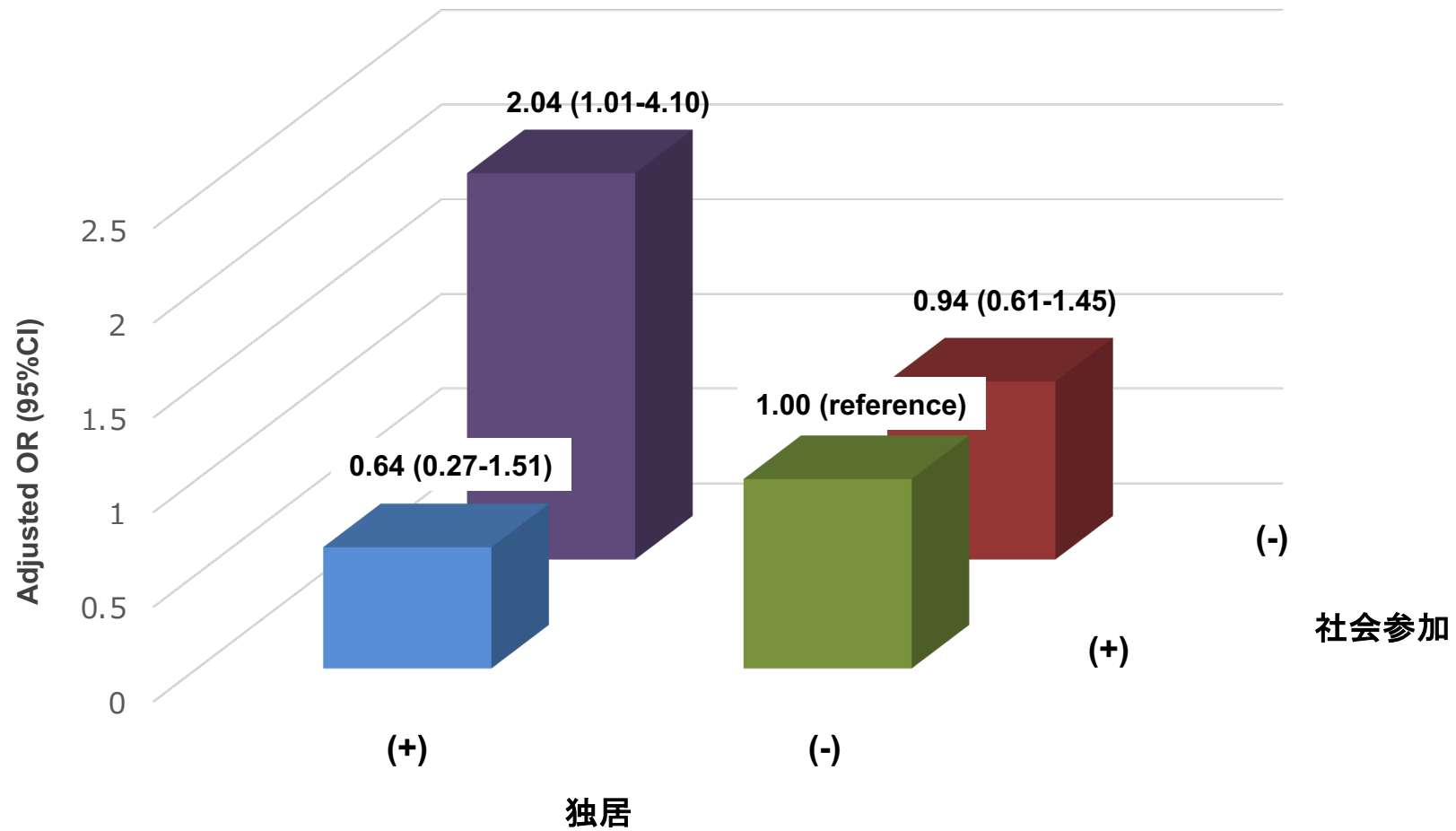


独居／社会参加あり



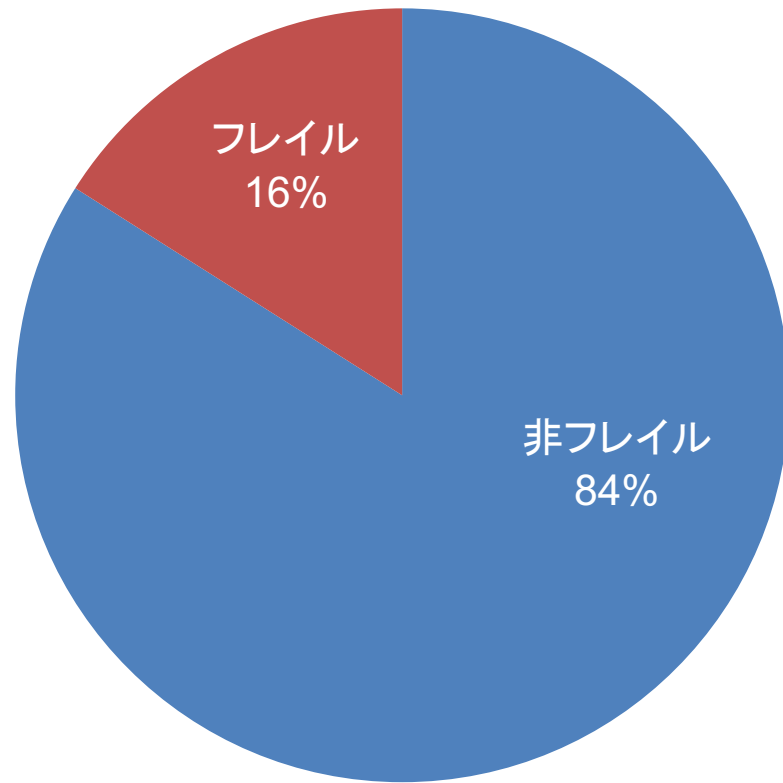
フレイルの新規発生

n=937
73.5±5.5歳

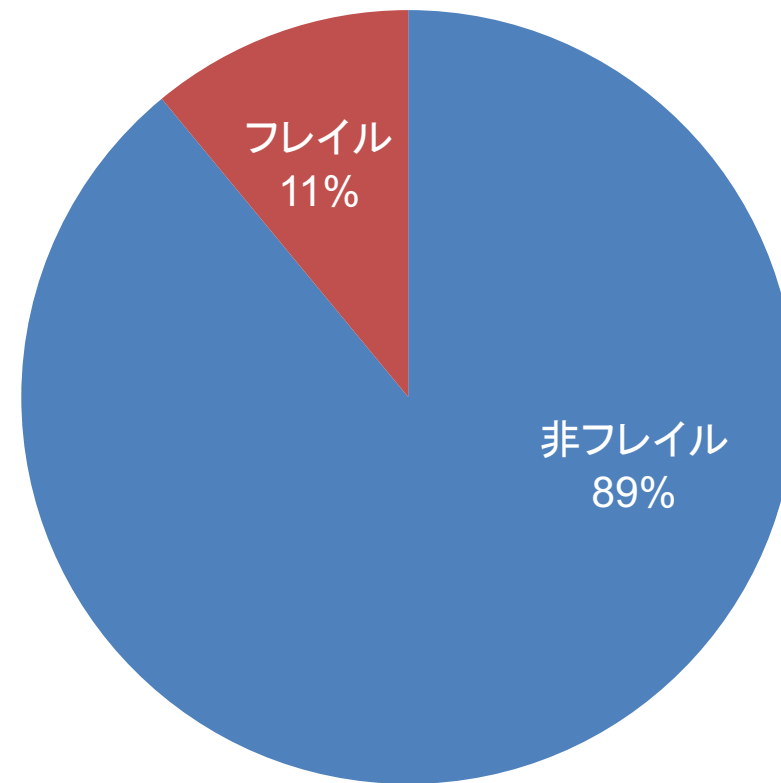


コロナ禍前後におけるフレイル発生率の変化

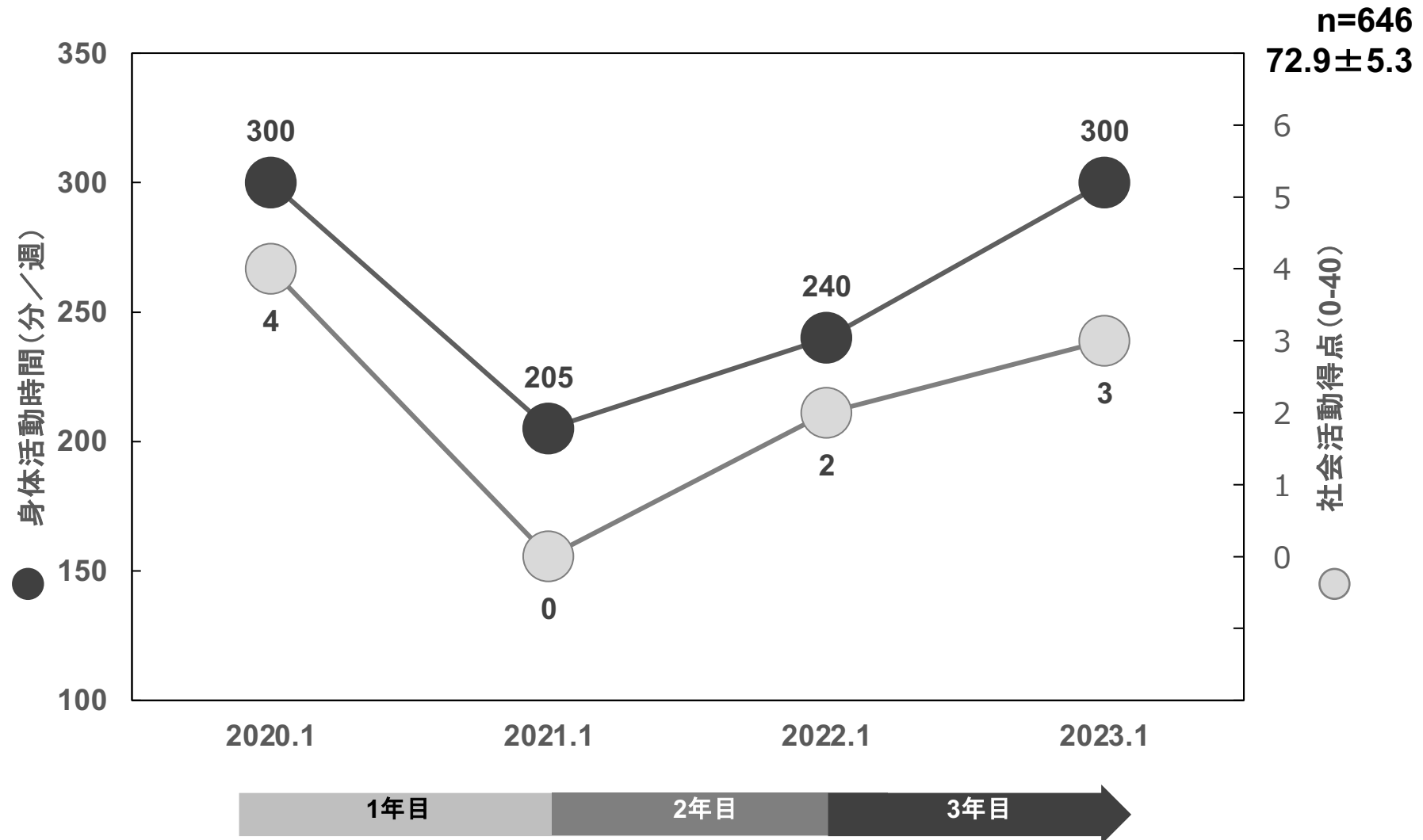
2020-2021
(During COVID-19 pandemic period)



2015-2016
(During non-pandemic period)



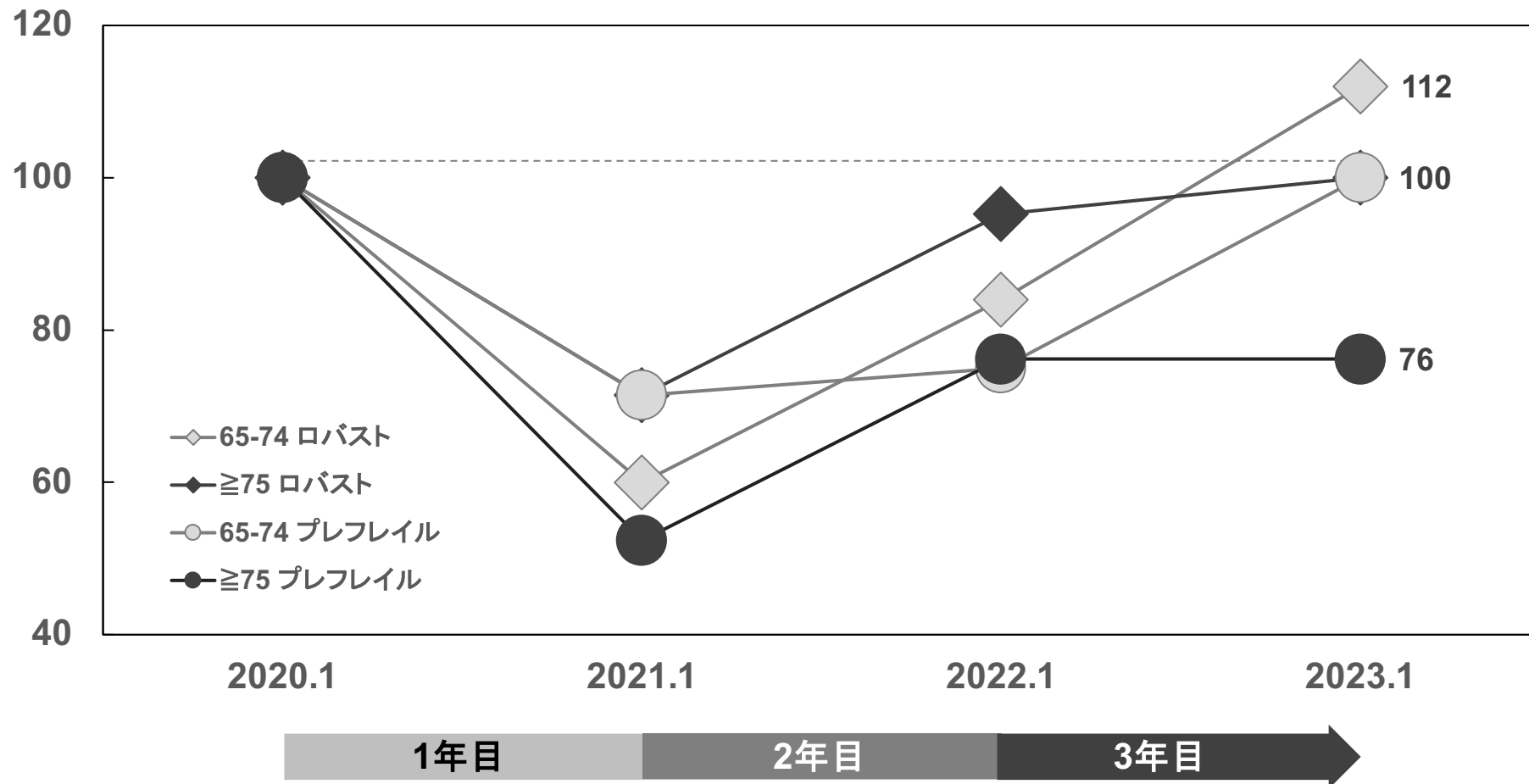
身体・社会活動の変化



カテゴリ別 身体活動の変化

身体活動時間、変化率(%)

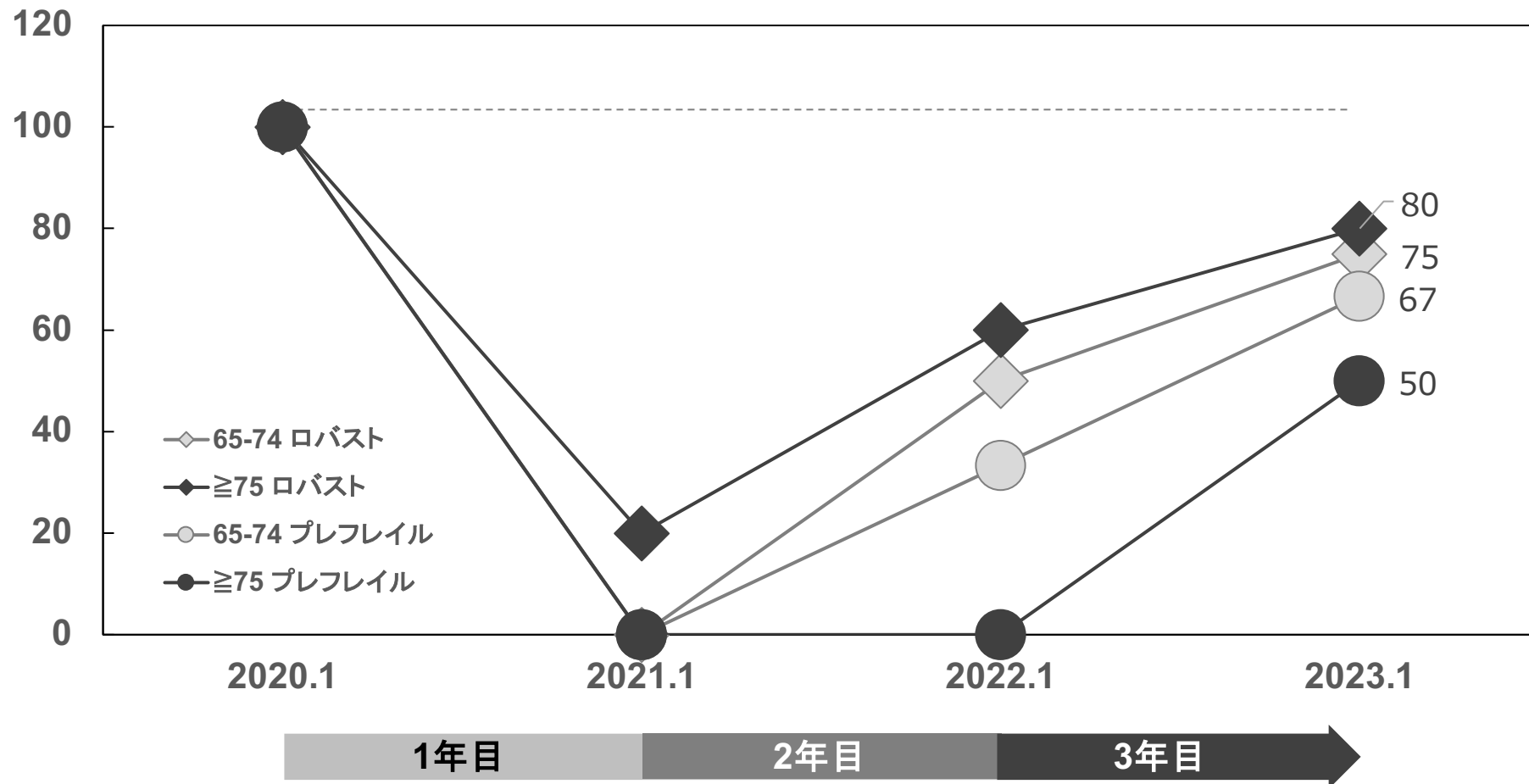
n=646
72.9±5.3



カテゴリ別 社会活動の変化

n=646
72.9±5.3

社会活動得点、変化率 (%)

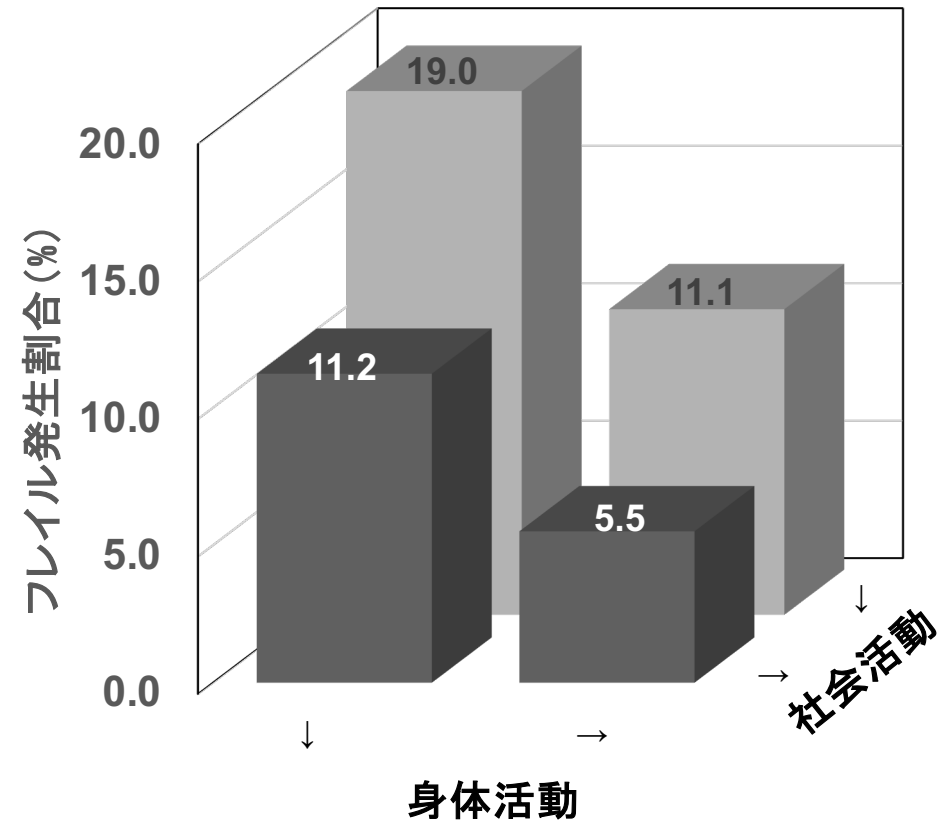
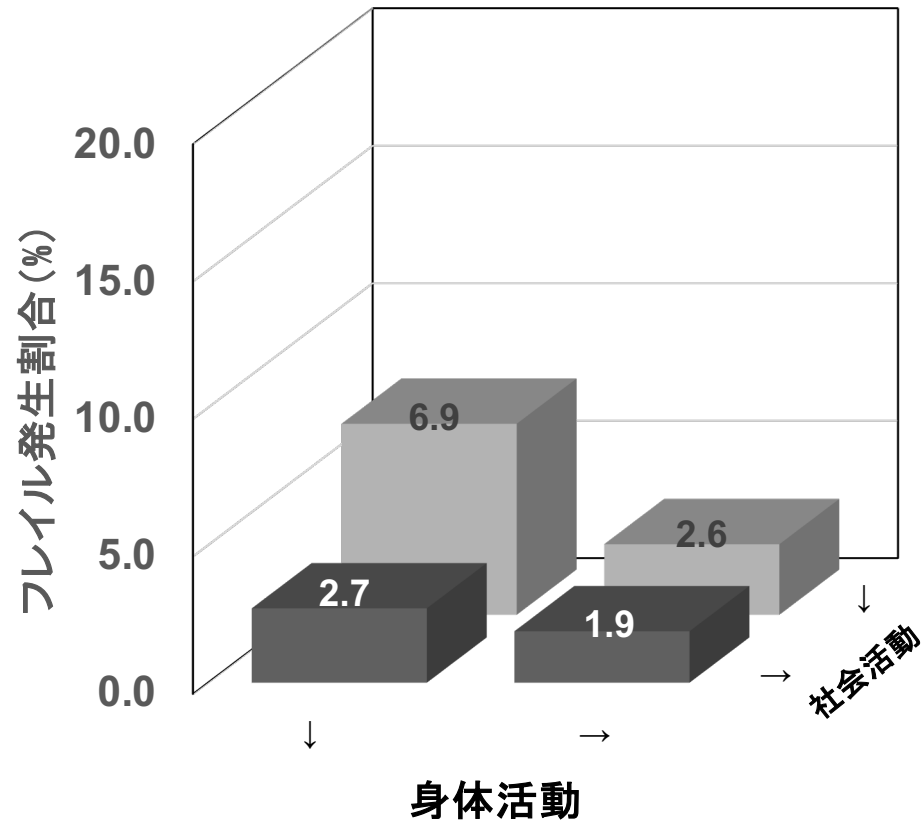


フレイル化

n=646

ベースライン:ロバスト

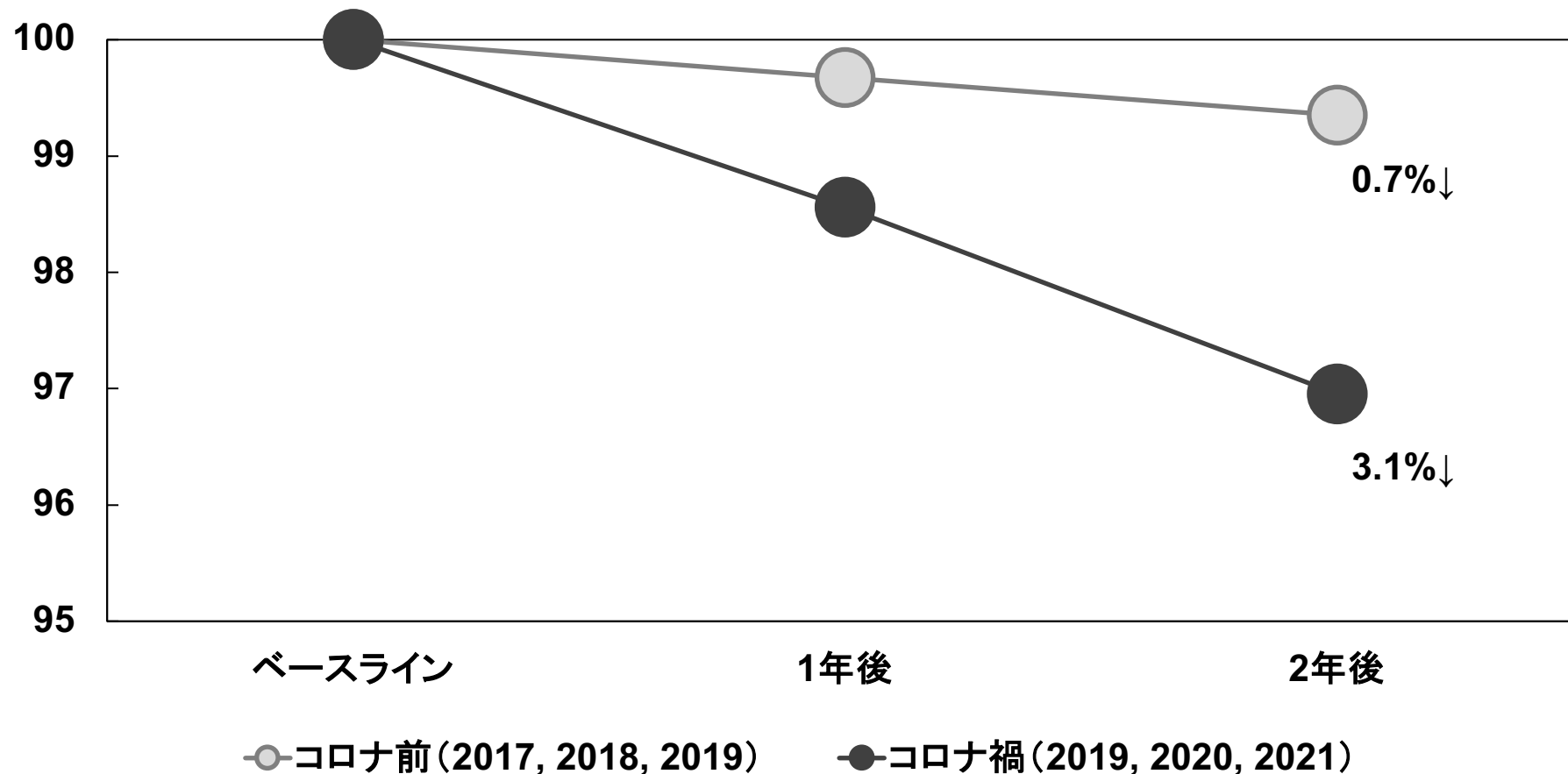
ベースライン:プレフレイル 72.9 ± 5.3



体カスコア:コロナ禍の変化

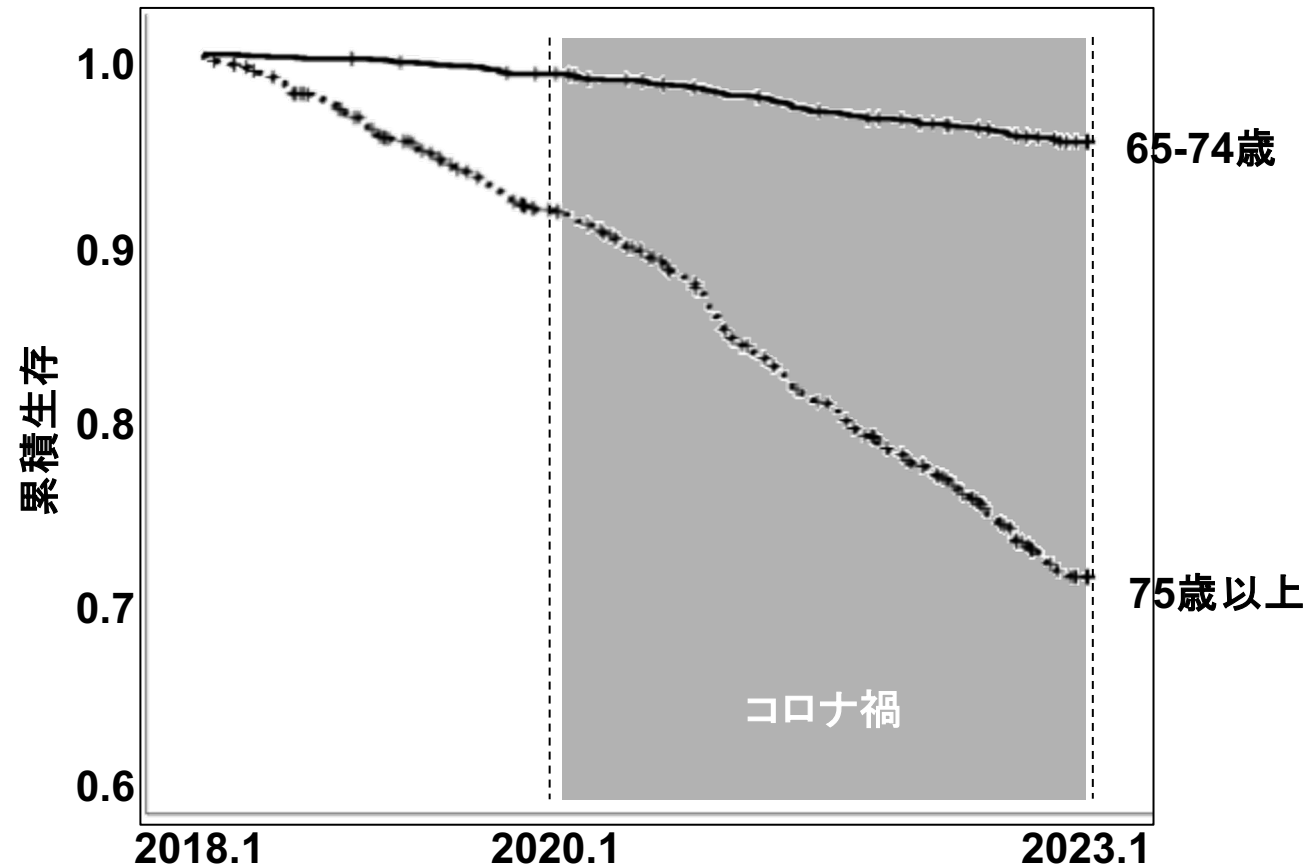
体カスコアの変化(%)

N=558, 72.7±5.7

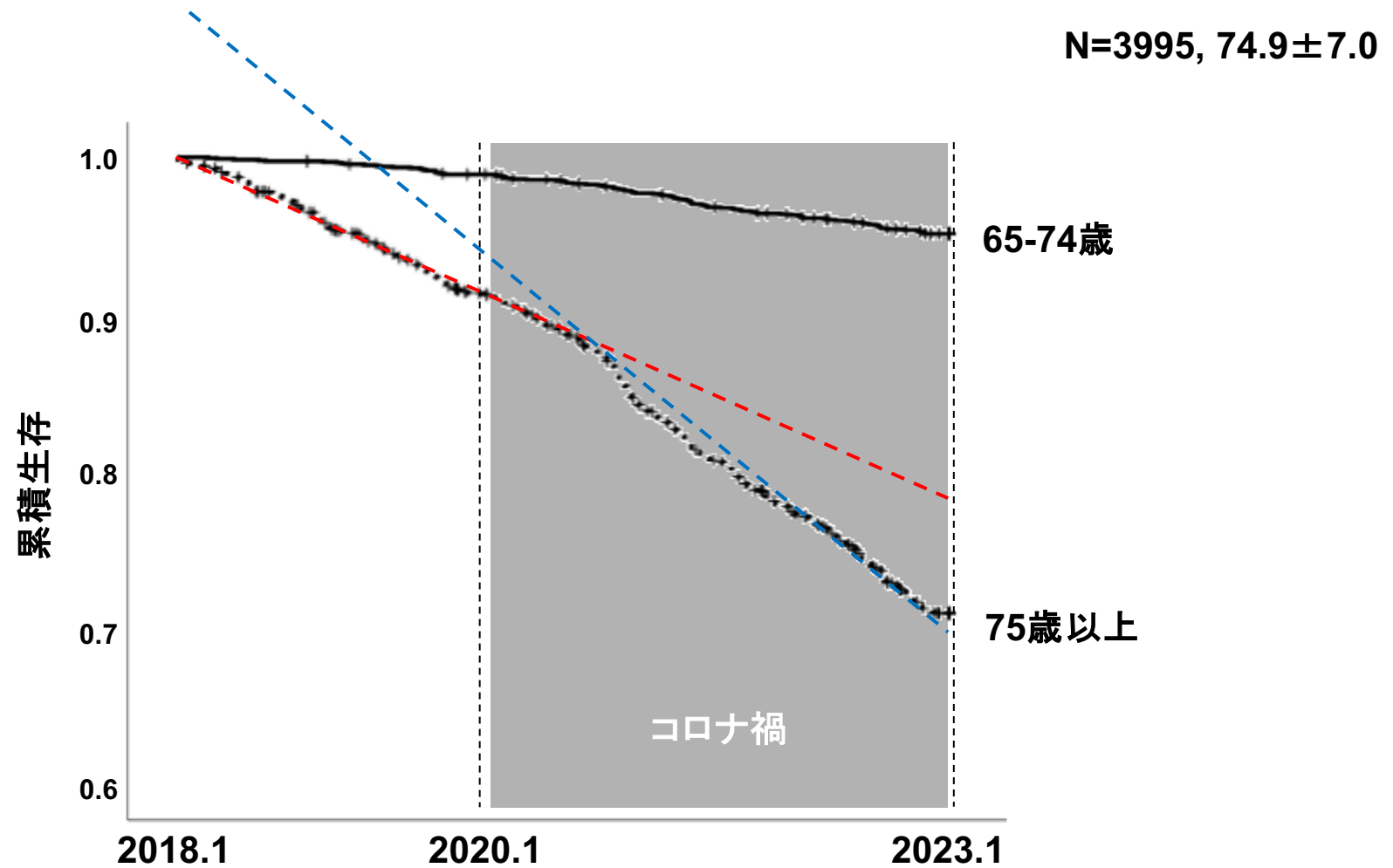


新規要介護発生：コロナ禍の変化

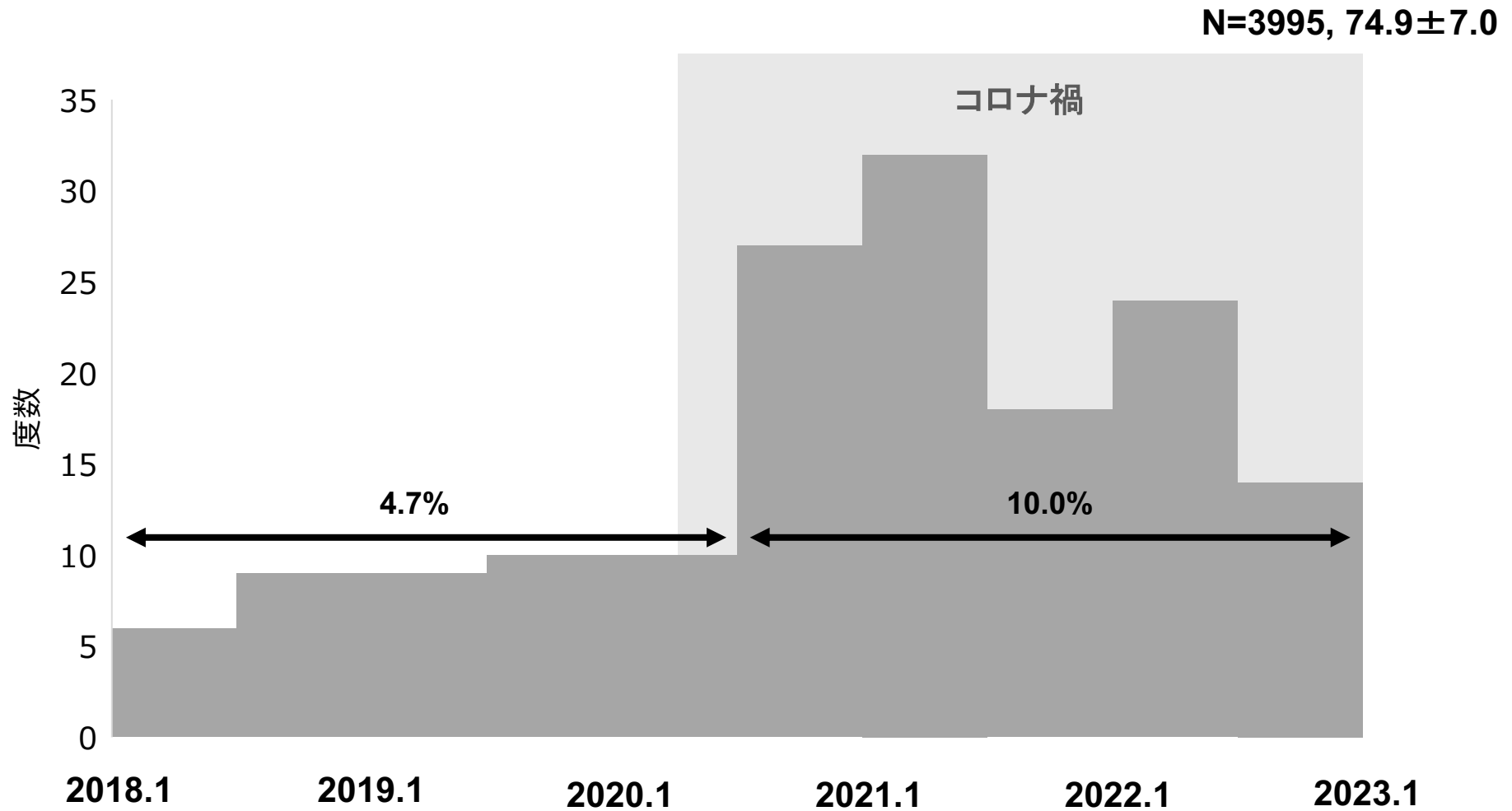
N=3995, 74.9±7.0



新規要介護発生：コロナ禍の変化



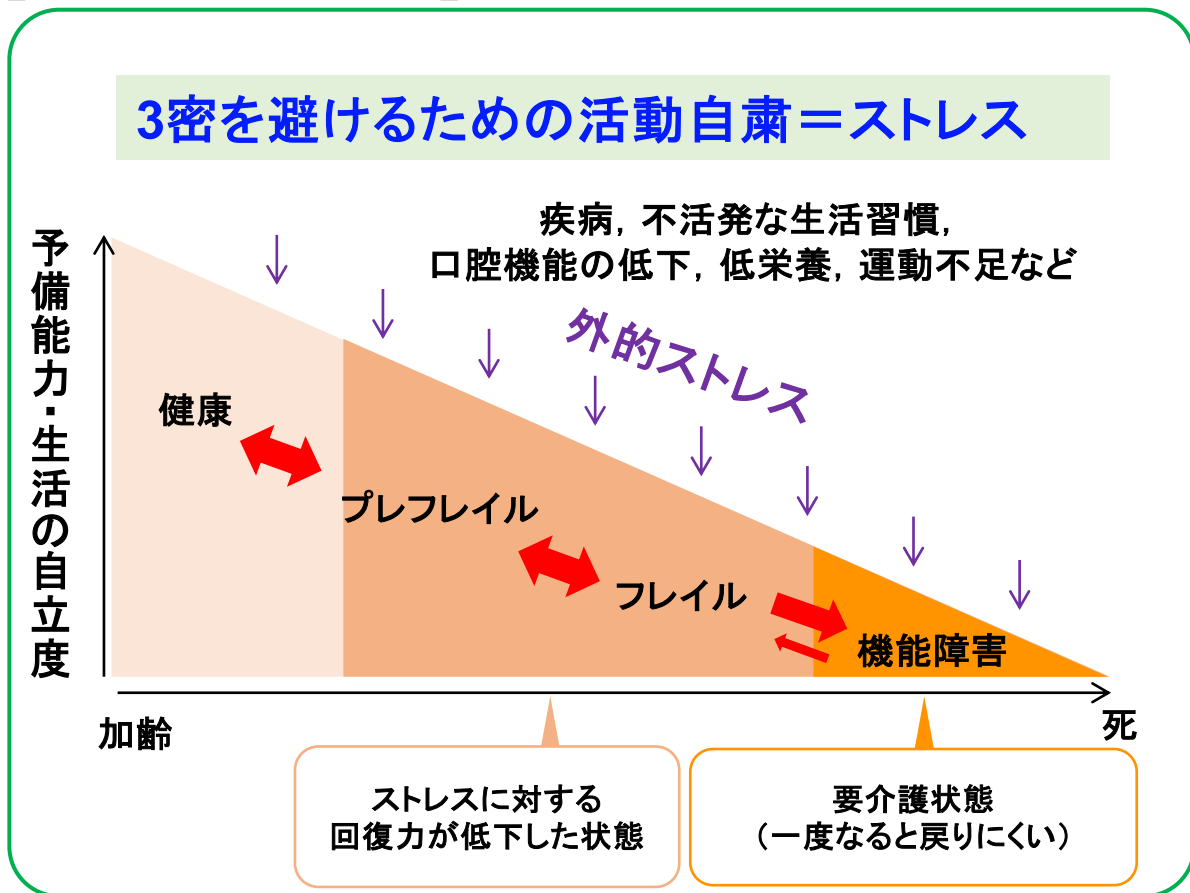
新規要介護発生：コロナ禍の変化



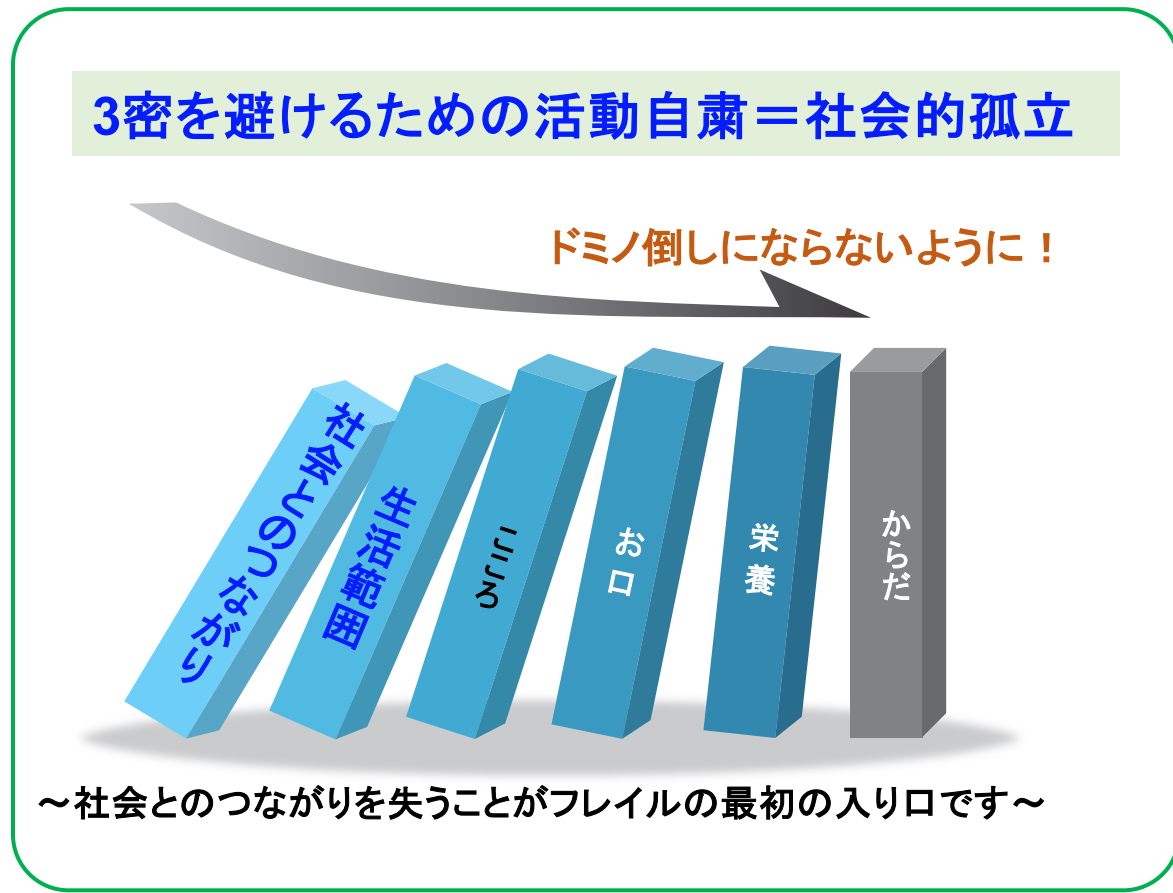
COVID-19とフレイル

フレイル: 加齢に伴う予備能力の低下のために, ストレスに対する回復力が低下した状態

【フレイルの概念図】



【フレイルドミノ】



感染制御と健康障害予防のバランス

